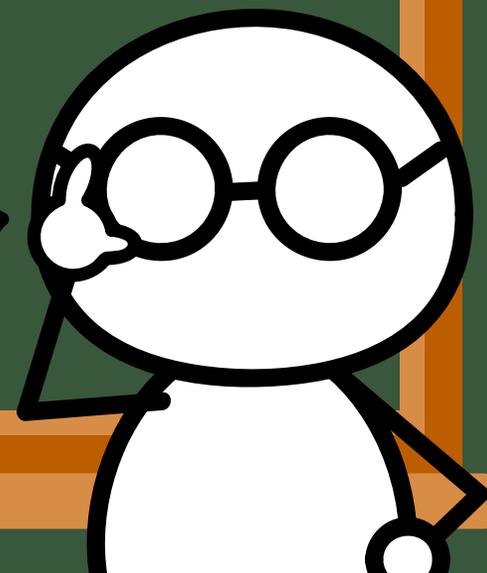


ICTで学びをわかりやすく

ICTを活用した 実践事例

令和7年度 二葉高等特別支援学校



高等学校に準ずる教育課程 音楽 I

活用の概要

- 楽器演奏が難しい生徒を対象に、Chrome Music Lab の Song Maker を活用して音楽の創作活動を行った。
- テンポ、音の高低、音色などを自分で選び、画面上に音を配置してメロディやリズムを作成した。

活用のねらい

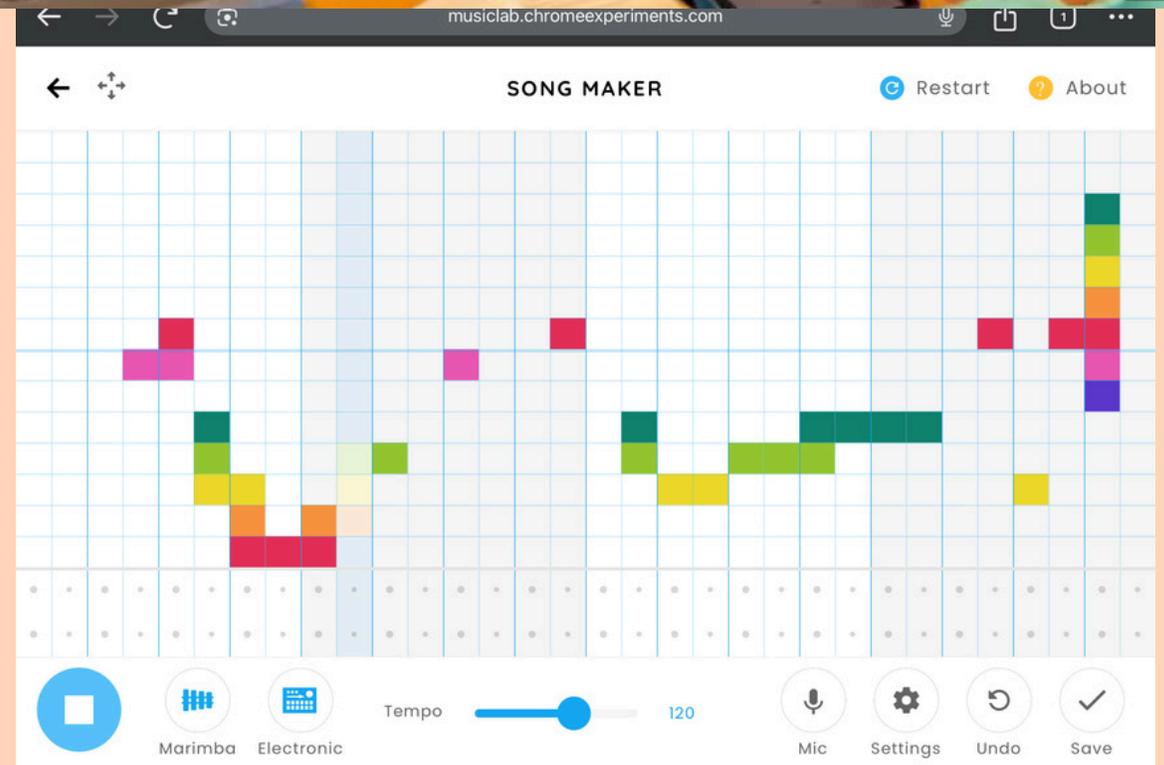
- 楽器演奏の技能に左右されず、音楽表現に参加できる手段を用意する。
- 音の組み合わせや構成を試行錯誤しながら、創作する楽しさを味わう。
- 自分のイメージを音として形にする経験を通して、主体的に創作へ向かう姿勢と達成感を育てる。
- 作品の共有を通して、相互理解やコミュニケーションを促す。

使用した支援機器など

- song maker

生徒の様子や変容

- 音を選んだり並べたりしながら、落ち着いて創作活動に取り組む様子が見られた。
- 再生して確認し、気づいた点を修正するなど、試行錯誤する場面が見られた。
- 自分のイメージを音として形にしようとする姿勢がうかがえた。
- 作品を共有する場面では、他者の作品に関心を示したり、自分の作品を紹介しようとしたりする様子が見られた。



ICTを活用した学習場面

C 協働学習

C1 発表や話し合い

C2 協働での意見整理

高等学校に準ずる教育課程 英語コミュニケーションⅠ

活用の概要

- Canvaのホワイトボード機能を用い、画面上に用意した付箋を活用して学習を行った。
- クラスの仲間と相談しながら付箋を移動・組み合わせ、不定詞を正しく用いた英文を完成させる活動を行った。

活用のねらい

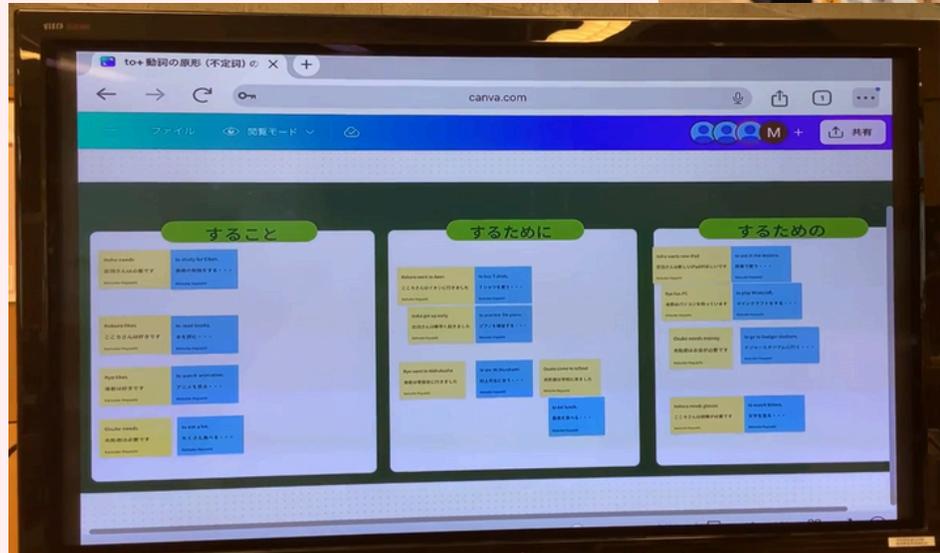
- 付箋を操作して文を組み立てる協働的な活動を通して、不定詞の形と用法を意味と結び付けて理解し、正しい語順で英文を作る力を育てる。
- 画面上で意見を出し合うことで、根拠をもって説明したり他者の考えを取り入れたりするコミュニケーションを促す。
- 学びの過程を可視化し、主体的な学習につなげる。

使用した支援機器など

- Canva

生徒の様子や変容

- 当初は各自が個別に課題に取り組んでいたが、付箋を正しく組み合わせるために意見交換が必要となり、自然と話し合いが生まれるようになった。
- 協働して進めることで、一人ひとりが判断や発言を求められ、受け身になりにくい状況となった。
- その結果、主体的に関わりながら集中して学習に臨む様子が見られた。



知的代替の教育課程 作業学習

活用の概要

- ・ICTを活用して目標設定システムを作成し、全員で目標設定と授業の振り返りを行えるようにした。

活用のねらい

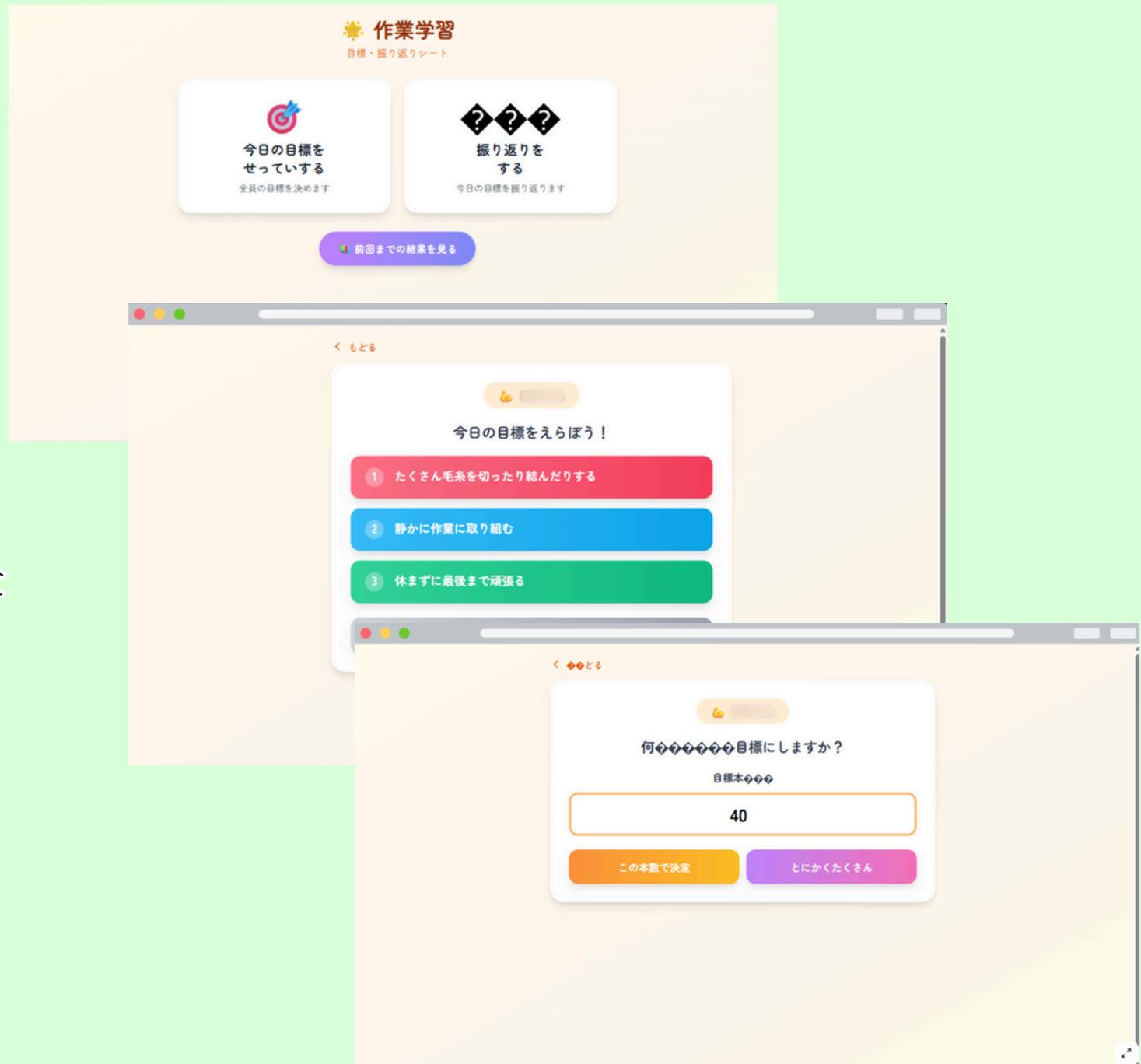
- ・自分の目標を具体化し、作業中の自己調整（意識づけ・ペース配分）につなげる。
- ・振り返りを可視化して言語化を促し、次時の改善点を明確にする。
- ・記録を蓄積して成長や達成を実感できるようにし、意欲の維持につなげる。

活用した支援機器など

- CanvaAI

生徒の様子や変容

- 個別で行っていた目標設定・振り返りを大画面で共有して行うことで、グループ全体で目標や課題を共通理解できるようになった。
- 作業が「ただ製品を作る時間」になりがちだったが、目標に向けて工夫・改善しようとする意識が芽生えた。



自立活動を主とした教育課程 自立活動

活用の概要

ノートパソコンに取り付けた視線入力装置と移動ユニットを連携させ、画面上の視線操作で進行方向を選択して車椅子を動かす活動を行った。視線入力による移動の活用を、体験的に学んだ。

活用のねらい

- ・ 視線入力装置の操作技能（注視・選択・決定）を高め、ICT機器を目的に応じて活用する力を育てる。
- ・ 自分の意思で移動をコントロールする体験を通して、主体性と自己決定の力を伸ばす。

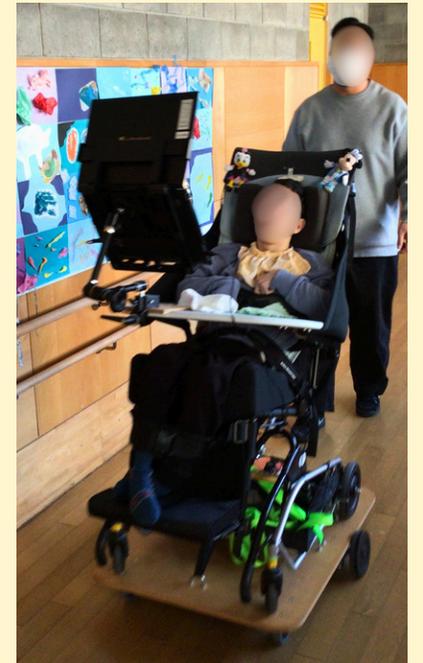
活用した支援機器など

- Big SmileLoco
- 視線入力ポータブルセット
- アイトラッカー (Tobii)
- Windows PC
- EyeMoT ボックスアプリ



生徒の様子や変容など

- もともと視線入力を用いたゲーム操作が得意な生徒であり、本実践でも視線操作と移動ユニットの動きの關係にすぐに気づいた。
- 自分の意思で進行方向を選び、移動しようとする主体的な様子が見られた。



ICTを活用した学習場面

B 個別学習 B1 個に応じる学習
C 協働学習 C4 学校の壁を越えた学習

訪問教育課程

特別活動

活用の概要

- ・訪問先と学校をオンラインで接続し、文化祭などの学校行事の様子をリアルタイムで共有して、訪問先にいる生徒が遠隔から参加できるようにした。
- ・会場の映像・音声配信に加え、学校の生徒や教員とのやりとりを取り入れ、双方向で参加できる形で実施した。

活用のねらい

- ・訪問先にいる生徒が学校行事に参加し、学校とのつながりを感じながら体験を共有できるようにする。
- ・遠隔でも「見るだけ」にならないよう、交流の機会を設けることで、主体的な参加意欲とコミュニケーションの力を育てる。
- ・学習機会の保障と、社会参加の幅の拡大につなげる。

使用した支援機器など

- Google Meet
- Zoom



生徒の様子や変容

- 学校にいる生徒からの問いかけに応答する場面が見られ、行事への参加意識の高まりがうかがえた。
- 他の生徒の発表や歓声に笑顔を見せたり、拍手をしたりする姿が見られた。表情の変化や反応から、行事を仲間と共有している実感をもって取り組む様子が見られた。

